

Amadeus Chorus
1st CONCERT
'81. 15. Feb.
Ishibashi Memorial Hall

アマデウス合唱団 創立第一回演奏会

MOZART

REQUIEM

●ご挨拶

本日のご来場に団員一同、心からお礼申し上げます。
「モーツァルトのレクイエムを自分たちの手で発表演奏したい」という夢を持つ仲間が集まったのがアマチュア混声、アマデウス合唱団の発足の契機でした。
音楽技術面、組織運営面、ともにうとい私たちが、幾多の難関を突破し、この度の公演に至ることができましたのは、

ひとえに良き指導者に恵まれ、広く多勢の方々のご協力を得たからに他なりません。いま私たちは人と人との素晴らしい出会いと和の妙に大きな幸せを感じ、皆様の暖かいご支援に深く感謝いたして居ります。今後とも皆様の厳しいご批判と、一層のご指導を仰ぎたくお願い申し上げます。

アマデウス合唱団代表 橋本 克久

●プログラム

I

モーツァルト作曲 宗教曲小品集

モテット「**アヴェ ヴェルム コルプス**」 K618
Motet "Ave verum corpus"

昇階誦「**主の母聖マリア**」 K273
Graduale "Sancta Maria mater Dei"

奉納唱「**主の慈悲を**」 K222
Offertorium "Misericordias Domini"

II

モーツァルト作曲 **レクイエム** *Requiem* K626

●演奏者紹介

指揮／寺村 博 …… 玉川大学工学部大学院博士課程修了，楽器音響学専攻。昭和49年よりエーテルワイス・アンサンブル・オーケストラ常任指揮者及び音楽監督として現在も活躍中。

管弦楽／エーテルワイス・アンサンブル・オーケストラ

トロンボーン／關根 五郎 …… 賛助出演（NHK交響楽団）

ソプラノ／諸橋 啓子 …… 昭和49年武蔵野音楽大学卒業。現在東京芸術大学大学院オペラ科在学中。二期会25期研究生。

アルト／小林 真理 …… 昭和54年東京芸術大学声学科卒業。55年日仏声楽コンクール入選。現在同大学院ソロ科在学中。

テノール／佐伯 雅巳 …… 昭和43年東京芸術大学オペラ科修了。現在武蔵野音楽大学、東京音楽大学各講師。二期会会員。

バス／砂田 直規 …… 昭和49年信州大学卒業後、東京混声合唱団に4年在籍。現在東京芸術大学大学院在学中。

オルガン／大原 佳代 …… 昭和55年東京芸術大学オルガン科卒業。第2回オルガンコンクール3位。現在同大学院在学中。

※合唱指導／下村 郁哉

●解説

1791年、モーツァルトは未完のレクイエムに心を残したまま、世を去らねばならなかった。作品は、彼の死後、直接指示を受けていた弟子のジュスマイヤーの手により翌1792年に完成された。死期を悟り、この曲をみずからの「葬送の曲」と確信したモーツァルトは、病身をおして死の前日まで作曲の手を休めようとせず、「ラクリモザ」の8小節目で筆が途絶えたことはよく知られている話である。

曲は7部からなり、第1部「イントロイトゥス」は死者の永遠の安息を主に乞い願い、続く第2部「キリエ」のフーガに移る。ここまでは、一般にモーツァルト自身が器楽パートも含めて全部書きあげたとされている部分である。

第3部は感動的な「セクエンティア」で、ミサ典書では19節に分かれているが、モーツァルトはそれを全部で6つの部分に分けて作曲している。まず第1曲「ティエス・イレ」と続く「トゥーバ・ミールム」では最後の審判の恐ろしさとその様子が歌われ、第3曲以下「レクス・トレメンテ」「リコルダレ」「コンフダーティス」「ラクリモザ」では罪の許しと安息への願いが歌われる。

第4部の「オッフエトリウム」も印象的な部分であり、大きく「ドミネ・イエス」と「オスティアス」に分けられる。第3部と第4部は、「ラクリモザ」の後半をのぞき、モーツァルトが歌唱声部を書きあげ、他の重要な部分の指示を残していた部分である。

第5部は「サンクトゥス」であり、これも2つの部分からなる。第1曲「サンクトゥス」のあと、第2曲「ベネディクトゥス」が続くが、これはジュスマイヤーが補った部分である。第6部「アニュス・ティ」も同じであるが、最後の第7部「コンムニオ」は、ジュスマイヤーが「イントロイトゥス」と「キリエ」全曲を詞だけ置きかえて作りあげ、ともかくもモーツァルト本人の音楽でこの「葬送の歌」をしめくくっている。

補筆という悪条件はありながらも、この曲が人々に与える感銘は深く、教会作品としてのみならず、音楽史上稀代の名曲として輝きを放っている。

REQUIEM (死者のためのミサ曲)

I Introitus

Requiem.
Requiem aeternam, dona eis, Domine,
Et lux perpetua luceat eis.
Te decet hymnus, Deus in Sion,
Et tibi reddetur votum in Jerusalem,
Exaudi orationem meam, ad te omnis caro veniet.
Requiem aeternam dona eis, Domine,
Et lux perpetua luceat eis.

II Kyrie

Kyrie eleison, Christe eleison, Kyrie eleison.

III Sequentia

1. Dies irae

Dies irae, dies illa solvet saeculum in favilla.
teste David cum Sybilla.
Quantus tremor est futurus, quando iudex est venturus,
cuncta stricte discussurus.

2. Tuba mirum

Tuba mirum, spargens sonum, per sepulchra regionum,
coget omnes ante thronum.
Mors stupebit et natura, cum resurget creatura, iudicanti responsura.
Liber scriptus proferetur, in quo totum continetur,
unde mundus iudicetur.
Iudex ergo cum sedebit, quidquid latet apparebit,
nil inultum remanebit.
Quid sum miser tunc dicturus, quem patronum rogaturus?
cum vix justus sit securus?

3. Rex tremendae

Rex tremendae majestatis, qui salvandos salvas gratis,
salva me, fons pietatis.

4. Recordare

Recordare Jesu pie, quod sum causa tuae viae,
ne me perdas illa die.
Quaerens me sedisti lassus, redemisti crucem passus,
tantus labor non sit cassus.
Juste iudex ultionis,
donum fac remissionis ante diem rationis.
Ingemisco tanquam reus, culpa rubet vultus meus,
supplicanti parce, Deus!

I 入 祭 文

永遠の安息
主よ 永遠の安息をかれらに与え
たえざる光をかれらの上に照らし給え
神よ 主への称讃をふさわしくうたうのは シオンにおいてである
エルサレムでは 主にいけにえをささげる
死すべき者はみな 主にかえる 主よ 私の祈りをきき給え
主よ 永遠の安息をかれらに与え
たえざる光をかれらの上に照らし給え

II キリエ

主よあわれみ給え キリストよあわれみ給え 主よあわれみ給え

III 続 誦

1. 怒りの日

ダヴィドとシビッラとの予言のとおり
この世が灰に帰すべきその日こそ 怒りの日である
審判者が すべてをおごそかにただすために来給うとき
人々の恐怖はいかばかりであろうか

2. 不思議なラッパが

この世の墓の上に 不思議なひびきを伝えるラッパが
全人類を玉座の前に集めるであろう
人間が 審判者に答えるためによみがえるとき 死と自然界とは驚くであろう
そのときこの世をさばく すべてのことを書き記されている書物が もち出さ
れるであろう
審判者が審きの座につくとき かくされたことはことごとく知られ あらゆる
ことがさばかれるであろう
そのとき あわれな私は 何をいおうか どんな弁護者に頼もうか
義人さえも不安をもつであろうのに

3. おそるべき大王よ

おそるべき大王よ 救われるものを御恵みでもって救い給うあわれみの泉よ
私をも救い給え

4. 思い給え

慈悲深きイエズス 地上に御身が下り給うたのは 私のためでもあった
その日 私を亡し給うな
私をさがし求め 十字架の刑でもって私をあがない給うた御方よ
その労苦を空しくし給うな
正義によって罰し給う審判者よ
報告すべき日より先に 私にゆるしの恩寵を下し給え
私は とがある者として嘆く 罪を恥じて顔を赤らめる
神よ 乞い願う私をゆるし給え

qui Mariam absolvisti, et latronem exaudisti,
mihi quoque spem dedisti.

Preces meae non sunt dignae, sed tu bonus,
fac benigne, ne perenni cremer igne!
inter oves locum praesta et ab hoedis me
sequestra, statuens in parte dextra.

5. Confutatis

Confutatis maledictis, flammis acribus addictis,
voca me cum benedictis.

Oro supplex et acclinis, cor contritum quasi cinis,
Gere curam mei finis.

6. Lacrymosa

Lacrymosa dies illa, qua resurget ex favilla judicandus homo reus.
Huic ergo parce Deus, pie Jesu Domine,
Dona eis requiem! Amen!

IV Offertorium

1. Domine Jesu

Domine Jesu Christe, Rex gloriae! Libera animas omnium
fidelium defunctorum de poenis inferni et de profundo lacu!
Libera eas de ore leonis, ne absorbeat eas tartarus, ne cadant in obscurum,
sed signifer sanctus Michael repraesentet eas in lucem sanctam.
quam olim Abrahae promisisti, et semini ejus.

2. Hostias

Hostias et preces tibi Domine, laudis offerimus.
Tu suscipe pro animabus illis, quarum hodie memoriam facimus!
Fac eas, Domine! de morte transire ad vitam.
quam olim Abrahae promisisti, et semini ejus.

V Sanctus

Sanctus, sanctus, sanctus, Dominus Deus Sabaoth!
pleni sunt coeli et terra gloria tua. Osanna in excelsis.

Benedictus

Benedictus, qui venit in nomine Domini. Osanna in excelsis.

VI Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi, dona eis requiem.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi, dona eis requiem sempiternam.

VII Communio

Lux aeterna luceat eis, Domine
cum sanctis tuis in aeternum, quia pius es.
Requiem aeternam, dona eis, Domine! et lux perpetua luceat eis.
cum sanctis tuis in aeternum, quia pius es.

マグダラのマリアをゆるし 善い盗賊の願いを聞き給うた御方は
私にも希望を与え給うた
私の祈りは 聞きいられる価値のないものではあるが 慈悲なる御方よ
あわれみをもって 私を永遠の火に追いやり給うな
羊の中に私を置き 牡山羊から引きはなし 御石に置き給え

5. 呪われた者どもを

呪われた者どもを罰し はげしい火の中に落とし給うとき
私を選ばれた者の一人として招き給え
灰のようにくだかれた心をもって ひれ伏して願ひ奉る
私の終りの時をはからい給え

6. 涙の日

罪人が さばきのために 塵からよみがえるその日こそ 涙の日である
願わくは神よ かれをあわれみ給え 主よ やさしきイエズスよ
かれらすべてにやすみを与え給え アーメン

IV 奉 献

1. 主イエズス

栄光の王 主イエズス・キリストよ 死んだ信者すべての靈魂を 地獄
の淵と底なき深淵とから救い出し獅子の口から解き放ち給え
かれらを冥府におとさず 闇に投げ給うな
旗手聖ミカエルが かれらを聖い光明に導かんことを
主が その昔 アブラハムとその子孫とに約束し給うたその光

2. いけにえ

主よ 讚美のいけにえと祈りとを われらは主にささげ奉る
本日記念する靈魂のために これを受け入れ給え
主よ かれらを死から生命へと移し給え
主がその昔 アブラハムとその子孫とに約束し給うたその生命

V 聖なるかな

聖なるかな 聖なるかな 聖なるかな 万軍の神なる主
主の栄光は天地に満つ 天のいと高きところにオザンナ
ほむべきかな
ほむべきかな 主の名によりて来たるもの 天のいと高きところにオザンナ

VI 神の小羊

神の小羊 世の罪を除き給う主よ かれらに安息を与え給え
神の小羊 世の罪を除き給う主よ かれらに安息を与え給え

VII 聖体拝領誦

主よ 永遠の光明をかれらの上に輝かせ給え
とこしえに主の聖徒らとともに 慈悲ぶかき主よ
主よ 永遠の安息をかれらに与え たえざる光をかれらの上に照らし給え
とこしえに主の聖徒らとともに 慈悲ぶかき主よ

●アヴェ ヴェルム コルプス K618

1791年モーツァルト死去の年、彼の妻コンスタンツェは体を悪くして、ウィーン近郊のバーデンへ湯治に行っていた。この曲は6月にそこで作曲され、彼女が世話になっていた当地の教師であり、また合唱長でもあったシュートルへ贈られたものである。これはモーツァルトの合唱曲の中で最も広く親しまれ、愛されているものであろう。僅か46小節の、演奏も3分とカからない短い曲ながら、その素朴な美しさの中にこめられた敬虔な祈りが深い感銘を与えてくれる。

Ave verm corpus, natum de Maria virgine,
vere passum immolatum in cruce pro homine.
Cujus latus perforatum unda fluxit et sanguine,
es to nobis pregustatum in mortis examine.

めでたし 処女マリアより生まれしことの御体、
人のためまことに苦しみ 十字架の上に犠牲となり、
おん脇腹を刺し貫かれ 水と血を流し給えり
死の裁きの前に我等の糧となり給え

●主の母聖マリア K273

1777年9月、20歳のモーツァルトは故郷ザルツブルクの宮廷の職を離れ、パリへ旅立った。この曲はその直前に作曲されており、旅の安全と加護を聖母マリアへ祈願するためのものと考えられている。声部はソノ口を持たず、終止合唱の形で歌われ、四声のアンサンブルが重視されている。複雑な手法を避けて書かれており、短く単純な構成の曲ながら、その深味のある美しさには晩年の傑作「アヴェ ヴェルム コルプス」に通じるものがある。

Sancta Maria mater Dei, ego omnia tibi debeo
sed ab hac hora singulariter me tuis servitiis devoevo,
te patronam te sospitatricem eligo.
Tuus honor et cultus aeternum mihi cordi fuerit,
quem ego nun quam deseram neque ab aliis mihi subditis
verbo factoque violari patiar
Sancta Maria, tu pia me pedibus tuis advolutum recipe
in vita protege, in mortis discrimine defende.
Amen.

主の母聖マリア 私は全てを御身に負っております。
しかし今この時から御身への奉仕に生きることにいたします。
御身を私の守護者 救済者として選びます。
御身の誉れと崇敬は私の心いつまでも続きますよう
私は決してそれを捨てることなく また私の元に委ねられた人が
言葉と行いによってそれをおかすことを許しますまい
聖マリア 御身の足元にひれふす私をやさしく受け入れ 一生の間
守り 死の時には特別に守り給え
アーメン

●主の慈悲を K222

1775年、オペラの上演のためにミュンヘン滞在中、バイエルン選挙候に教会音楽の能力を見せるために作曲された。この曲は、短いテキストを前後2つのプロックに分け、それを11回にわたって展開反復し、両者の対照のおもしろさを見せてくれる。モーツァルトは1776年、この作品を敬愛するポローニャのマルティーニ神父へ送り、教えを乞うた。それに対し師は、モーツァルトの音楽面における大きな成長を認め、作品の高い完成度に賞讃の言葉を贈ったのである。

Misericordias Domini, cantabo in aeternum.

主の慈悲を 永遠に誉め歌わん

アマデウス合唱団 1981・2

●ソプラノ

谷口真由美 吉成 悠子
畑 寛子 菊池千鶴子 杉浦 規子
小林まり子 小田巻彰子 吉永 陽子
武田 真穂 海老原明子 青柳 和代
奥田 洋子 本多佐知子 田沼 道子
窪田 玲子 林 理恵子 谷 方子
真造 順子 渡辺 博子 小口由紀子
鴨田ルミ子 永田 尚子
桜井 京子 酒井規久子

●アルト

小林 千春
加藤 優子 小沢 節子
高田 公子 石川 満美
大岩 幸子 地引由佳里
伊藤 正子 武松三千代
佐々木景子 朝枝 敦子
宮沢 孝江 高良 孝子
山川まさえ 土肥奈保美
稲垣 智子 室沢志津子
石橋るり子 大沢 直子
駒崎真由美 東野谷和子
本橋 久枝 蓮見香代子

●テノール

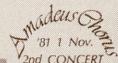
山崎 厚
林 喜与志
神崎 雅人
釣井 博之
鈴木 俊二
河合 敏夫
野口 碩
菅原 耕路
大久保 訓

●バス

橋本 克久
高瀬 好英
下条 毅
伊藤 通
樋口 正文
志熊 正造
岩下 具己
黒後 智彦
大越 祥敬
高柳 裕司
鈴木 優

松本 啓一

三浦 文夫
弘志
塩崎 清司
吉池 純
木村 一男
鈴木 藏
山崎 和英
橋本 俊広
河村 智昭



アマデウス合唱団新団員募集

当合唱団では11月の第2回
定演へ向け、新団員募集中/
曲はヘンデルの「メサイア」
毎週1回、6時半より9時
まで練習。

問合せ《伊藤》☎918-6569

Amadeus Chorus